



こうか
まちかど特派員

とみやま ゆみこ
富山由美子



飛ばせ子どもたちの笑顔 紙ふうせんとともに

甲賀図書館では月に2回、「お話サークル紙ふうせん」というボランティアサークルにより、子どもたちへの本の読み聞かせが行われています。私もそのボランティアサークルの一員なのですが、まだまだ未熟で、悪戦苦闘しながら活動しています。しかし絵本の奥深い魅力にとりつかれた一人でもあります。

今回は、「お話サークル紙ふうせん」のサークル活動と読み聞かせの魅力をご紹介します。

「お話サークル紙ふうせん」が立ち上げられた歴史は古く、現在の図書館ができる以前の平成7年にさかのぼります。当時の甲賀町公民館で生涯学習の環境として、県内の図書館長を講師に昔話の世界を語りで楽しむ勉強会が行われたのがきっかけです。そこでお話の語りの魅力に惹かれた町内の主婦10人が立ち上げたのが始まりで、かれこれ14年になります。現在は、当時の勉強会に参加された主婦を中心とした8人のおばちゃんとの唯一のおじさんで構成されています。

甲賀図書館ができて、現在の活動内容が定着しました。まず第二土曜日の2時から、「ち



▲保育園でのお話イベント

びっこ読書クラブ」として、前半に昔話などの語りや手遊び、絵本や紙芝居の読み聞かせがあり、後半は簡単な工作を作って遊んでいます。第四土曜日には、「紙ふうせんお話し会」として、

午前11時からお話と絵本の読み聞かせ、紙芝居を行っています。他にも、小学校や幼稚園でも活動しています。最近では、お年寄りとのふれあいサロンへも出かけています。

私自身が、やっとお話のおもしろさにはまり、絵本の魅力に気付いたところですが、サークル活動を行って、たくさんの子どもの笑顔に出会い、ますます子どもたちとのふれあいを大切にしたいと感じました。読み聞かせは、読み手と聞き手の気持ちが一休となり、そこに本の魅力が加わることによって、あなたがい感動をつくり出します。自分が楽しむことを第一に、



読み聞かせと工作の楽しい時間



そしてその楽しさを伝えるため自分も早く味のあるお話を語れるように、うまく絵本を読み聞かせられるようにサークルとともに成長していきたいと思っています。いつの時代でも、子どもたちの笑顔が輝き続けることを願っています。